

沖縄県が恒久平和に貢献するために



立命館大学総合研究機構 国際地域研究所 客員協力研究員
国際平和ミュージアム専門委員

山根和代

専門分野、経験等について

- 専門分野：平和学、平和博物館を通じた平和教育
- 教育：立命館大学やスペインのハウメー一世大学等で、平和学の講義
- 経験：高知市の平和資料館「草の家」で国際交流のボランティア活動。1992年英国ブラッドフォード大学で第一回平和博物館会議に、「草の家」の館長代理で出席。その後国際交流
- イギリスに留学中、ヨーロッパ各地の戦争博物館、平和博物館、反戦博物館、抵抗博物館などを訪問
- 立命館大学国際平和ミュージアムで副館長、現在専門委員
- INMP(国際平和博物館ネットワーク) 顧問、INMP 通信編集委員、「平和のための博物館市民ネットワーク通信「ミューズ」と英文通信Muse Newsletter編集委員

平和教育

- 学校での平和教育：広島の県立高校での平和教育
 - 平和資料館・平和博物館：学校だけでなく、地域で平和教育
 - 高知市：総務課国際平和担当～豊かな平和行政
 - 高知市の平和資料館「草の家」：1989年、西森茂夫氏創設。
目的：平和と教育、環境問題をテーマに、次世代に戦争の恐ろしさと平和の尊さを伝えていく。
- <http://www.maroon.dti.ne.jp/kusanoie/index.html>
- 様々な団体が集まって、Peace Waveという行事（講演会、資料展、戦争遺跡見学、コンサート、美術展、演劇、灯籠流しなど）

スペインのハウメー世大学大学院平和学受講生Natiさん
「草の家」の活動を紹介すると、平和博物館を創設したい！
その結果、平和博物館が創設された。素晴らしい若者の行動
力



スペインの平和博物館を訪問した子ども達の写真展



立命館大学とアメリカン大学：広島と長崎へ研修旅行
異なった歴史観で対立⇒相互理解、友人に
「はだしのゲン」の著者、中沢啓治氏と 2011年8月4日



1992年 第1回国際平和博物館会議 英国ブラッドフォード大学

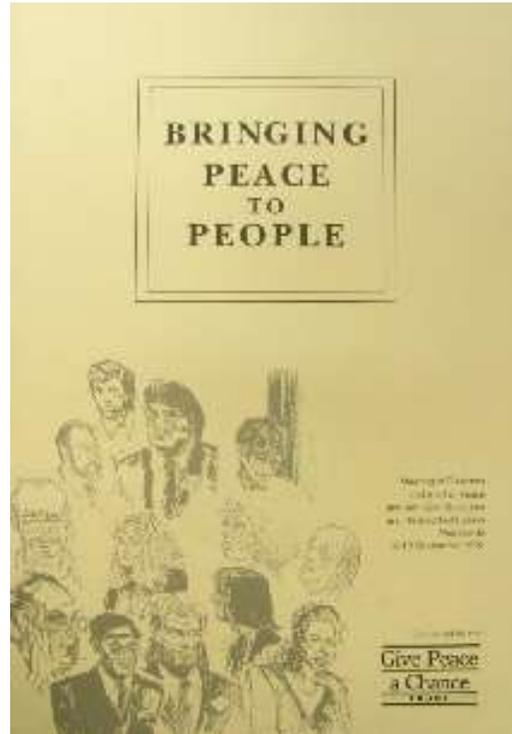
- 「平和にチャンスを与えよ」クウェーカー教徒の小さな慈善団体のジェラルド・ドゥルイット氏



- 目的：英国の平和運動の歴史を伝え、人々が今日の平和運動に参加するのを励ますような平和博物館を創設すること。海外から学びたい。
- 国際ネットワークをつくること
- その結果、通信の発行、人的交流を開始

1992年 第1回国際平和博物館会議

国際会議報告集



- その後の10年間に平和ギャラリー、そして平和博物館が創設された。8月10日に再開館。
- 国際会議後、多くの関係者が「草の家」や自由民権記念館等へ（イギリス、オーストリア、イタリアなど）⇒国際交流の開始

平和のための博物館市民ネットワーク通信 「ミューズ」と英文通信Muse

<https://jcnmp-web.jimdofree.com/>

1999年から今日までの通信を読むことができる。

Muse Newsletter in Japanese & English

ミュージーズ No. 367 平和のための博物館市民ネットワーク通信

発行：2009年 2月
 編集：山本洋子、山本浩子、山本浩子
 〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 日本橋本館
 電話：03-5561-0000 山本洋子（山本浩子）

この通信は博物館市民ネットワークの機関紙として発行され、その内容は博物館市民ネットワークの活動や、平和のための博物館市民ネットワークの理念、活動の報告、そして、平和のための博物館市民ネットワークの未来について、山本洋子、山本浩子、山本浩子による記事が掲載されています。

この通信は博物館市民ネットワークの機関紙として発行され、その内容は博物館市民ネットワークの活動や、平和のための博物館市民ネットワークの理念、活動の報告、そして、平和のための博物館市民ネットワークの未来について、山本洋子、山本浩子、山本浩子による記事が掲載されています。



山本洋子、山本浩子、山本浩子

Muse No. 367

Japanese Citizens Network of Museums for Peace

Newsletter: January 2007

No. 1 Editor: Ms. Yoko Yamamoto, Editor-in-Chief
 1000 Tomioka Avenue, Tokyo 100, JAPAN
 TEL: 03-5561-0000 <http://www.jcnmp.com>
 FAX: 03-5561-0001
 Editor: Yoko Yamamoto, Yoko Yamamoto, Yoko Yamamoto
 Website: www.jcnmp.com
 Museum: Peace World & Japan House

Introduction (Peace World & Japan House)
 Editor: Yoko Yamamoto, Editor-in-Chief

Yoko Yamamoto

Peace World & Japan House is located at Tomioka Avenue, Tokyo 100, JAPAN. It is a half hour by train from Shinjuku Station. We are a non-profit organization and we are open to all people who are interested in peace and human rights. We are a place where you can meet and talk to people from all over the world. We are a place where you can learn about the world and yourself. We are a place where you can make friends and find a home.

Editor: Yoko Yamamoto, Editor-in-Chief
 Yoko Yamamoto, Editor-in-Chief
 Yoko Yamamoto, Editor-in-Chief

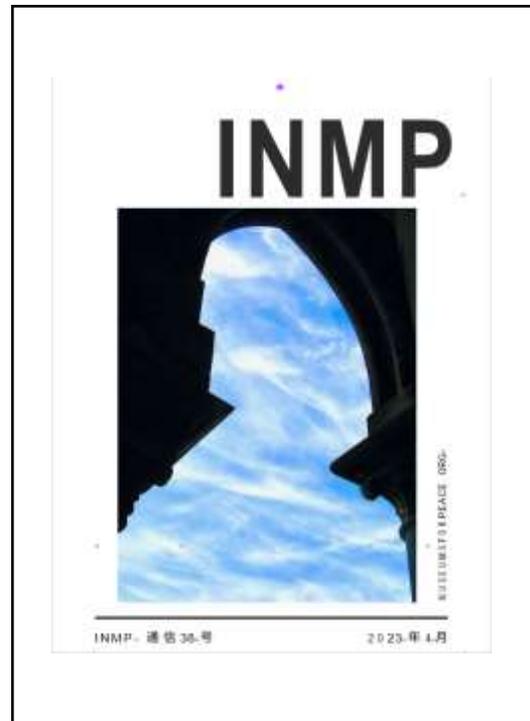


Yoko Yamamoto, Editor-in-Chief
 Yoko Yamamoto, Editor-in-Chief

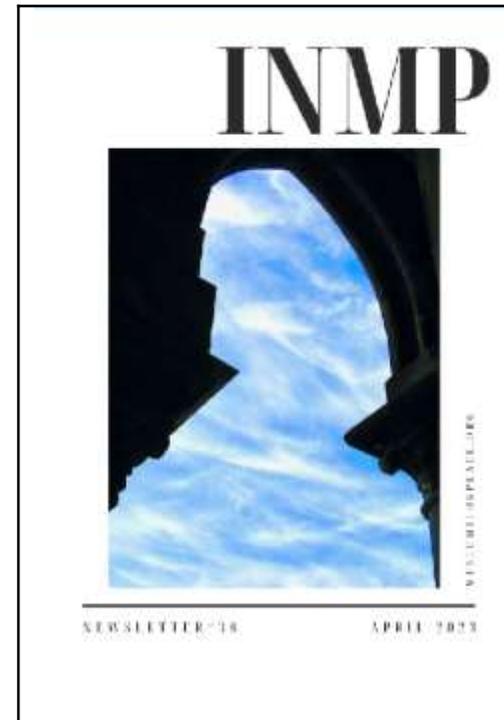
INMP (平和のための博物館国際ネットワーク International Network of Museums for Peace) 通信

<https://sites.google.com/view/inmp-museums-for-peace/newsletters?authuser=0>

日本語版



英語版



INMPの役割：（例）デトロイトの刀を鋤に・平和センター・ギャラリーの「原爆と人間展」（被団協）：
「草の家」が寄贈（1995年）

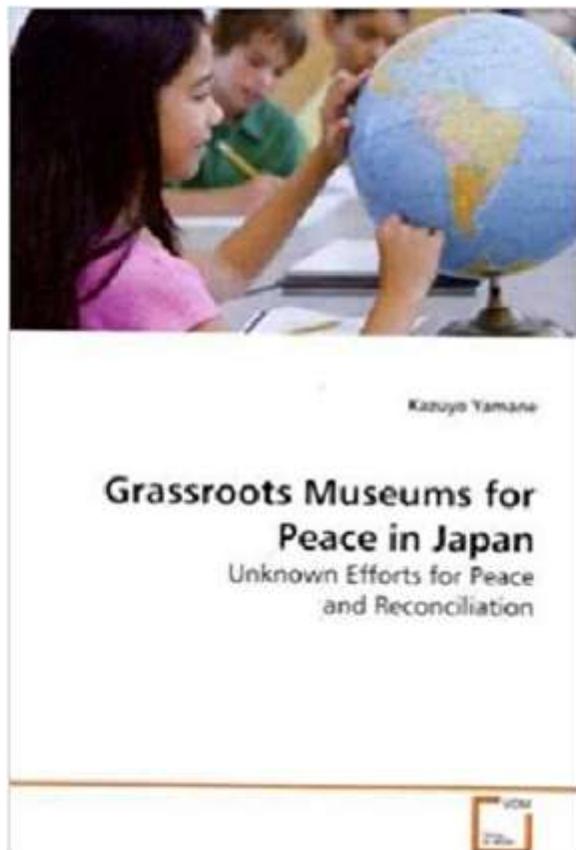


海外へ日本の平和資料館の紹介

『日本における草の根の
平和博物館： 知られざ
る平和と和解の努力』

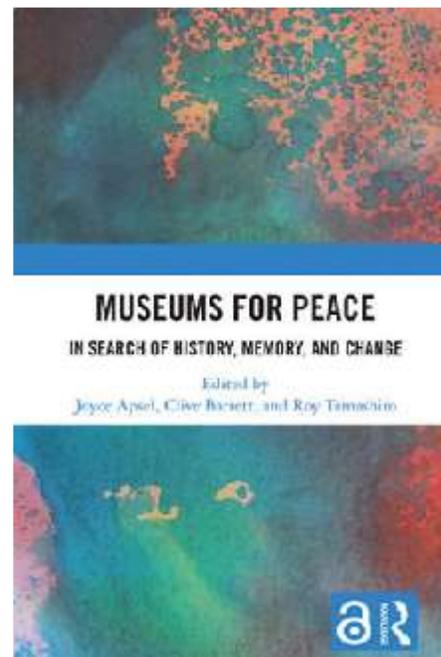
2009

山根和代著、ドイツで出版



『平和のためのミュージアム：
歴史、記憶、変革を求めて』
2024 イギリスで出版
(Routledge)

イギリスの平和ミュージアムのクラ
イブ・バレット博士と山根が「東ア
ジアにおける平和と和解のための博
物館」を執筆



沖縄県が恒久平和に貢献するために

- テーマ「沖縄の平和」：戦後80周年の機会に沖縄から世界に向けて改めて発信すべきメッセージ等について、幅広い視点から議論を深めていく。
- 現在の情勢：政府の外交では、武力で紛争解決をしようとしている。
- 市民、若者の外交では、対話と交流で戦争をさせない活動が重要では？
- 具体的に何ができるのか？ 核戦争の危機がある中、核保有国の大学や平和博物館で、交流をしたらどうか？

平和のための国際ネットワーク

- **国際平和研究学会** (International Peace Research Association: IPRA) 日本はAPPRA (Asia Pacific Peace Research Association) に所属 <https://www.iprapeace.org/>
- この中のPeace Education Commission ⇒ Journal of Peace Education : <https://www.tandfonline.com/journals/cjpe20>
- **INMP** (International Network of Museums for Peace) 平和博物館の国際ネットワークで、平和教育を推進し交流
- **IPB** (International Peace Bureau. ノーベル平和賞受賞団体) 世界の平和運動をまとめている。 <https://ipb.org/> 軍事基地問題も取り上げている。

平和博物館交流の例：Peace Academy in 2017 in Korea (国際平和ミュージアムと韓国ノグンリ平和記念館)

Photo: No Gun Ri Peace Memorial



**WHERE IS
NOGUN-RI?**

**WHERE IS JEJU
ISLAND?**



歴史や文化に関する 講義やワークショップ





朝鮮戦争中、住民がアメリカ軍に殺された現場

濟州 4.3
平和記念ホール





觀光旅行

沖縄と海外博物館との提携

- **台湾**：国立人権博物館、台北2. 28記念館
- **韓国**：済州島4. 3事件平和記念館

台湾と韓国の3施設とは、覚書を締結しており、情報・出版・人材育成の機会等を連携することとしている。

* 済州大学のAeDuck Im 教授より：「沖縄の文化が好きです。特に、済州島のような家のデザインが好きで、故郷の済州島に帰ってきたような気分になりました。」

* 平和博物館や大学（平和研究者や学生）との交流は、平和教育を推進する上で重要ではないか。

沖縄と海外博物館との提携

- **ドイツ**：オスナブリュック市内にある「エリーヒ・マリア・レマルク平和センター（ERICH MARIA REMARQUE PEACE CENTER）」連携に向けた意見交換を進めているところ（INMP会員）**現地への訪問やオンラインセミナーで交流を？**

- **カンボジア**：カンボジア地雷対策センター（CMAC）同施設のスタッフを育成するため、沖縄県平和祈念資料館で受け入れるなどの連携を進めているところ。

*** もしINMPに関心があれば紹介し、共に情報交換や交流をすると良いのでは？**

『平和への思い』 発信・交流・継承事業(HPが充実！)に加えて

かつてないほど核戦争が
起こる危険性が高い中、核
保有国の若者との交流も促
進したらどうか？

- **中国**：南京大学（Liu Cheng教授：平和学）や John Rabe Memorial、南京大虐殺関連博物館を通じた交流を



アメリカの平和博物館と大学

- アメリカ：オハイオ州デイトンの International Peace Museum (<https://www.peace.museum/>)
- Wilmington Collegeの平和資料センター (Peace Resource Center : <https://www.wilmington.edu/prc>)
広島名誉市民になった Barbara Reynolds (1915-1990) の資料を
展示し平和教育を推進



核保有国の若者とも交流を：イギリス

- イギリス：Peace Museum
(<https://www.peacemuseum.org.uk/>)

ブラッドフォード大学

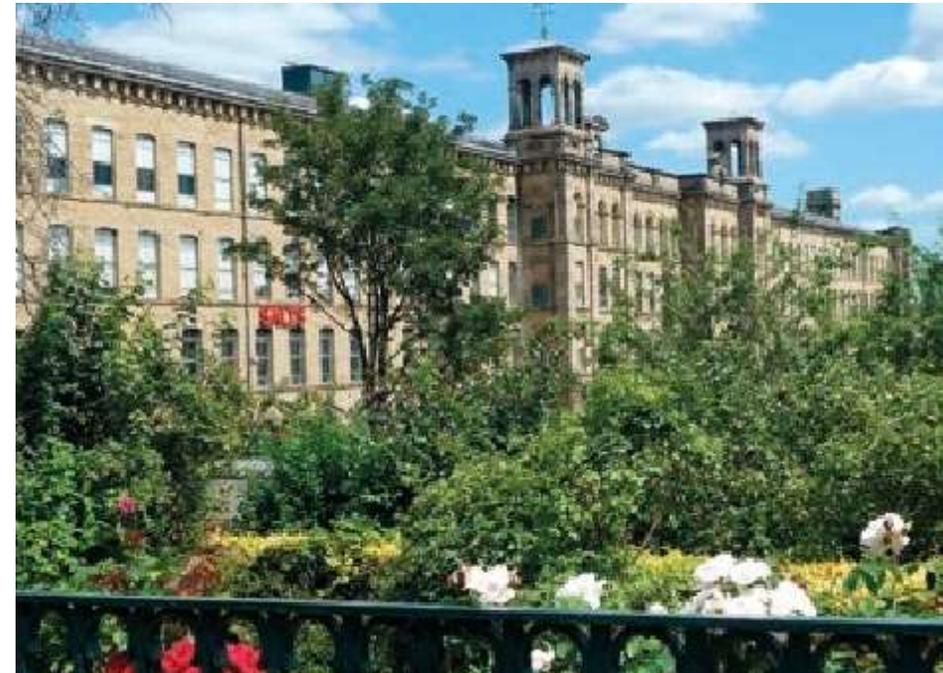
(平和学) との連携は、可能

Dr. Peter van den Dungen:

INMP 創始者

Dr. Clive Barrett: INMP

コーディネーター



フランスの平和博物館と大学関係者

- フランス

VerdunのWorld Center for
Peace, Liberties and Human
Rights (Jeju Peace Forumに
参加)

Caen Memorial:

<https://www.memorial-caen.com/>

- パリにある大学にヨーロッパ歴史センター：国立政治科学財団内に設立された。その研究者と交流



ウラジーミル・I・イオネソフ (Vladimir I. Ionesov) :
サマラ国立文化大学教授

- 国際平和ミュージアム紀要に「アジアにおける平和構築に関する考え方：いかにしてアジア地域に平和を生み出すか（サマルカンド平和と連帯の国際博物館とその提携先の事例を考察して）」を執筆

chrome-extension://efaidnbnmnnibpcajpcglclefindmkaj/https://rwp-museum.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/mwp_20_ionesov.pdf

- Peace & Change: A Journal of Peace Researchに、「変化する文化の中での平和博物館と平和構築」(Peace Museums and Peacebuilding in Changing Culture, Part I) を執筆

<https://peaceandchangeblog.wordpress.com/2020/11/12/peace-museums-and-peacebuilding-in-changing-culture/>

核保有国の若者とも交流を：ロシア

- ロシア(サンクトペテルブルク)：オレグ・ボドロフ (Oleg Bodrov) ～物理学者、生態学者、フィンランド湾南部沿岸公共協議会会長、国際平和ビューロー理事
- アメリカの大学とも交流
沖縄では？ (美しい海、辺野古の問題など)



自転車で 海岸のお気に入りの場所へ：環境に優しい方法
スマホで写真を撮り、感想と共に展示

核保有国の若者とも交流を：インド

- No More Hiroshima: No More Nagasaki: Peace Museum

Dr. Balkrishna Kurvey

- インドとパキスタンは核兵器を保有し、軍拡競争を繰り広げている。
- 夏には被爆者の写真を展示して、平和教育を推進している。



戦争ではなく、様々な分野での外交・交流を

Multi-Track Diplomacy: A systems Approach to Peace by Louise Diamond & Ambassador John McDonald. 1996

- 自治体：（例）イギリスのコベントリーとドイツのドレスデン（友好都市）
- 大学生の交流例：立命館大学とアメリカン大学（ワシントンDC）
- 研究者の交流：例えばスペインのハウメー一世大学
- 平和博物館の交流：「草の家」と731部隊関係博物館や韓国の植民地歴史博物館／国際平和ミュージアムと南京大虐殺関係博物館や韓国のノグンリ平和記念館などと交流

まとめ

- 平和研究に基づく平和教育により
 - * 視野が広がる。（教科書、マスコミの報道に限界）
 - * 行動の原動力になる。
例：イランのテヘラン平和ミュージアムの若者が、国際平和ミュージアムを訪問。その後日本人の女子学生がテヘラン平和博物館へ
(若者は決して無気力ではない。真実を知れば、行動する！)

まとめ

- 政府の外交では、武力で紛争解決をしようとしており、このままでは非常に危険な状態。核兵器は約80年間使用されなかったが、今日はかつてないほど危機的な情勢。
- 沖縄と海外博物館との提携や、『平和への思い』発信・交流・継承事業に加えて、核保有国の平和研究者、学生、市民との交流を、大学や平和博物館を通して促進したらどうか？

参考文献

- 「世界における平和のための博物館」(2020)
303館あり、日本は84館。英語版と日本語版
Museums for Peace Worldwide: Luluで出版
<https://sites.google.com/view/inmp-2020/museums-for-peace-worldwide?authuser=0>
- INMP通信 (日本語版、英語版) 1992年～今日
<https://sites.google.com/view/inmp-museums-for-peace/newsletters?authuser=0>
- ミューズと英文通信Muse 1999年～今日
<https://jcnmp-web.jimdofree.com/>

参考文献

- 『平和のための博物館 歴史、記憶、そして変化を求めて』 (Museums for Peace: In Search of History, Memory, and Change)の中で、出版 (2024年英国 Routledge)

「東アジアにおける平和と和解のための博物館」

(山根和代、クライヴ・バレット著)

“Museums for Peace and Reconciliation in East Asia”
by Kazuyo Yamane and Clive Barrett